

## 地域を元気にする「持続可能な交通」～パネルディスカッションを開催



### ■ESTの未来をひらくパネルディスカッション

<プログラム>

基調講演：地域を元気にする「持続可能な交通」～NPOの役割

土井 勉氏（神戸国際大学教授）

#### ◆パネルディスカッション

コーディネーター … 松村暢彦氏（大阪大学大学院工学研究科准教授）

助言者…土井 勉氏（神戸国際大学教授）

パネリスト… NPO から ひらかた環境ネットワーク会議理事：末岡妙子氏  
京（みやこ）のアジェンダ21フォーラム

事務局コーディネーター：長谷川吉典氏

企業から 京阪バス株式会社企画部長：北西進太郎氏

行政から 兵庫県阪神北県民局宝塚土木事務所主査：山内有紀氏

<話題提供>

KOBE 地球おもてなし倶楽部代表：村上恵子氏

ESTの未来をひらくパネルディスカッションが2月6日、大阪市立生涯学習センターで開催され54人が参加しました。近畿地方環境事務所が主催したもので、あおぞら財団が協力しました。

### 住民と行政と事業者を結ぶ第3の目～NPO

はじめに、神戸国際大学の土井勉教授が、「地域を元気にする『持続可能な交通』NPOの役割」と題してパネルディスカッションの基調講演。交通が変われば地域が元気になる、と自身が関わった具体的な事例を紹介しながら話題提供しました。



土井氏はまず、地球環境問題の解決の視点から交通の問題に言及しました。そして人間と交通の欠かせない関係についてのべるとともに、「交通を変えらるということは、意識を変える、生活を変える、それは社会を変えることにも繋がります」と指摘。CO2削減に果たす交通の役割、「わかっちゃいるけど止められない」クルマ利用の現実をふまえて行動を変えるための3要素（便益費用評価、社会規範評価、実現可能評価）を提示しました。さらに行動変容を促すための情報提供の大切さ、とりわけバスマップの役割とそれを作るプロセスの重要性についても事例を挙げて説明しました。

こうした活動にNPOが「住民と行政と事業者を結ぶ第3の目」として関わること、人材育成の場として活用してほしいとよびかけ、「行政と住民と事業者が集まると、実際できないことは色々あると思いますが、できない理由を探すよりも、どうしたらできるのかをみんなで考えることが大事です」と励ましました。

最後に土井氏は、自動車にできるだけ依存しない社会をめざして、ライフスタイルを変え、交通を変えていくことで社会システムが変わり、「安全で安心なコミュニティに直結してくる」と結びました。

### NPO、事業者、行政がそれぞれの立場から

パネルディスカッションのコーディネーターは、大阪大学大学院の松村暢彦准教授。NPO、交通事業者、行政とそれぞれの立場から地域での取り組みを紹介し、地域交通への熱い思いを語りました。



ひらかた環境ネットワーク会議の末岡妙子氏は、行政、バス事業者とともに取り組んできたバスマップづくりと四季折々に展開してきたバスイベントについて報告。市民とバス事業者をつなぐNPOの存在の大切さを熱く語りかけました。



京（みやこ）のアジェンダ21フォーラムの長谷川吉典氏は、京都市で展開するMMの取り組みについて紹介、観光都市・京都の特性を活かしたエコツーリズム、公共交通利用促進イベントや自転車活用、トランジットモール社会実験など様々な主体とのパートナーシップで取り組んだ活動を紹介しました。



京阪バス株式会社の北西進太郎氏は、バス事業者の立場から、NPOと協同ですすめるバスイベント、バスマップづくりの活動について「地域交通を支えるバス事業者としての責任を果たすためにもバスをPRすることが大事。効果は漢方薬のようなもの」と語りました。



兵庫県宝塚土木事務所の山内有紀氏は、3年目を迎えた県北部の広域バスマップづくりが、関係する行政やバス事業者との協力体制づくりの大切さ、NPOへの情報提供・ブログの開設で使い勝手を良くしている経験などを報告。また、小学生による駅周辺調査と電鉄会社の協力を得た展示を通して公共交通への関心を高める取り組みを紹介しました。



また、会場からは、KOBEST 地球おもてなし倶楽部の村上恵子氏が、KOBEST、まち歩きマップの取り組みを紹介しました。

### 生活を豊かにするきっかけに

MMやESTを地域で「広げる・続ける」ためのネットワークづくりの大切さ、後継者づくりなど地域とNPOがかかえる課題についても率直に語り合いました。

土井氏は最後に、ESTやMMを広げ・続けていくには、「世論を喚起するとともに、国の力、政策を動かしていくこと」を見通していくことが大切だと強調。バスマップの発行によって障害を持っている人が「一人で乗れるようになった」との喜びの声を紹介し、「持続可能な交通」への取り組みが、「自分の生活を豊かにしてもらおうきっかけに」なることが大切だと結びました。

コーディネーターの松村氏は、パネルディスカッションでは、「上に向かってものをいう」

ことの大切さとともに、生活者の視点でとらえて問題を提起し、「市民の方々にわかって頂くためには何をしたらいいのか」を考えつくした結果が報告されたとのべ、関係者の努力をたたえました。

### パネルディスカッションの感想から

- ・市民、交通事業者の協力なしには何もできないと考えた。
- ・このような活動が全国的に広がればいいと思う。
- ・パネリストの方の経験や苦労話が聞けてよかった。
- ・なぜ、今ESTが大事かよく理解できた。
- ・各地域の皆さんの取り組みにお腹いっぱい！圧倒されました。
- ・NPOの方の話が興味深かったです。
- ・それぞれの立場で継続するために様々な苦労されていることがわかった。
- ・各パネラーの苦労話など、内容が理解できてよかった。
- ・各パネリストが所属する日本の活動が中身の濃いものであり、又、製作物やイベントもアイデアの詰まったものであることが解り、有意義な会だったと思う。
- ・明るく、楽しさもあり、この中に1人1人の声や思いを大切にしている。協力している。ものの見方を前向きに、そこが素晴らしいエネルギーのようだ。
- ・京（みやこ）のアジェンダの組織や構成の豊かさや活動がわかった。
- ・色々な立場の方の話を聞けて、大変有意義でした。

